

# ライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



廣瀬動物病院長  
(富山市石坂新)

廣瀬 僚

動物病院では、診療後に院内で調剤し、薬をお渡しすることが一般的です。法律上は獣医師が処方箋を発行し、飼い主さんが調剤薬局で動物用の薬を受け取ることも可能ではあるのですが、対応できる薬局が極めて少ないため、院内処方を中心となっています。近年、動物に対する薬は目覚ましく発展していますが、人の薬に比べると経済的な規模が圧倒的に小さいため、有効な成分ではあるけれども、犬や猫などの動物用と

## 薬の話

78

### 分子標的薬で安全に

して販売されていない場合があります。そういった場合にはヒト用の薬や、牛や豚など産業動物用の薬を用いることがあります。また、欧米など海外のみで販売されている薬を輸入して使用することもあ

ります。同じ成分であっても動物の種類によって必要な量が異なったり、副作用に違いがあったりします。動物種によっては絶対に使用してはならない薬もあります。それ故

部分に作用する従来の薬に比べて重い副作用が少なく、安全性や有効性が高いと考えられています。現在は犬と猫の変形性関節症の慢性的な痛みを緩和する薬、犬のアトピー性皮膚炎のかゆみを軽減する薬、犬の皮膚肥満細胞腫(皮膚がん)に対する薬が販売されています。

変形性関節症やアトピー性皮膚炎は完治が困難であるため長期的な治療が必要となります。それ故、分子標的薬が開発されたことで、より安全に治療をすることが可能になりました。

ただし従来の薬にも優位性や利点があり、また分子標的薬にも欠点があります。かかりつけの先生と相談をしながら、動物たちに最適な薬を選んでいけると良いですね。

犬や猫に用いられている分子標的薬



われわれ獣医師は専門とする犬や猫などの動物のみならず、ヒトや産業動物の国内外の医療や薬について広く情報を集めて日々研さんに努めています。近年、分子標的薬という分野の薬が注目されています。分子標的薬は、痛みやかゆみを生じさせるシグナルや、がんの増殖因子などの特定の部分をピンポイントで標的にします。それ故、さまざま